

平成25年度
事業報告書

自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日

平成25年度 事業報告書 (P1)

社会福祉法人 偕恵園
特別養護老人ホーム 椿寿

平成25年度 特別養護老人ホーム椿寿 事業報告

平成25年度も人材確保、継続雇用を重要課題として取り組み、人員配置基準はクリアできましたが新人職員の確保は安定せず、例年と同様に困難を極める結果となりました。

ハード面では建物内の漏水が目立ち、その対応に多くの時間を費やしたことから、施設の現状を専門的に把握するため施設調査・診断を行ったところ300ヶ所以上の不備が見つかり、今後の施設改修に向け新たな課題が生まれました。また、施設設備については適宜、契約業者の見直しを行い、メンテナンスに掛かる費用の削減を図りました。

地域貢献については、ひかりが丘地域ケアプラザの「健康まつり」にて介護・健康・栄養相談等を行い、地域の方のニーズ把握の一手腕となりました。

介護支援の面では重度医療支援の入居者が多く、ニーズに対応すべく介護・医療研修を行い、重度医療の方への支援、ターミナルケアの充実を図ることができ、椿寿の目標である入居者全員のターミナルケアを可能とする方向性が構築されました。

1. 重点目標について

(1) 人材確保、継続雇用

就職面接会への参加、ポスティング等、多種多様な人材の確保に努め、新人職員については新人研修ノートを活用する等、施設全体で支えるシステムの構築に取り組んだ。

(2) 終末期ケアの更なる充実

介護・医療研修の実施、介護と看護の連携強化により介護職の不安を回避していくことで終末期ケアを充実し、H25年度は入居者22名(前年度12名)の看取りを実施する。

(3) 入居率では無く稼働率の安定

医療的に重症者の方でも、嘱託医・家族・施設職員間で密に連携を図りながらご支援し、本入居は昨年度と同じ97.5%を維持し、短期入所は96.2%と昨年度比0.7%UPした。

(4) 地域の老々介護の方の在宅支援(無償)

近隣の地域ケアプラザで協働し、地域住民を対象とした「健康まつり」を開催した。その中でも在宅で介護をされている方々や、ご自身が要介護状態の方々の医療・栄養等に関する相談援助を実施した。

(5) ハード面・ソフト面の危機管理の充実

建物の漏水が数ヶ所あり、ブレーカーが故障するなど重大な事故が発生したため、専門業者による施設調査を行い問題箇所を明らかにした。また、消防署との連携にて大型避難訓練、意見交換を実施し防災面への強化に努めた。

2. 管理面について

(1) 総務課

- ① 慢性的な職員不足に悩まされながらも、例年通り、職員配置は基準を下回ることはなく推移した。
- ② 経年劣化及び施工不備に伴う建物の危険箇所を明らかにするため、本格的な建物調査を実施し、300ヶ所を超える問題箇所が明らかとなった。施工会社である JFE と責任の所在について現在協議中である。
- ③ 業者との契約内容見直しを行い、オムツ業者、エレベーターメンテナンス会社などの変更を行いコスト削減に努めた。
- ④ 介護職員処遇改善交付金を一時金として支給し、金銭的待遇面の向上を図った。

(2) 防災害対策

- ① 消防計画に基づき年2回の総合避難訓練実施
- ② 毎月1回、各フロア毎における大型地震想定による避難訓練実施
- ③ 消防設備法定点検年2回(外部委託)と毎月の定期自主検査
- ④ 消防査察対応
- ⑤ 防災マニュアルの見直しと利用者個人台帳の作成
- ⑥ 防災備蓄品の維持管理
- ⑦ 消防署との意見交換、職員研修

3. 支援面について

(1) 介護支援課

① 苦情

H25年度は2件の苦情があった。本入居にて、新入居後の1週間、職員間の連携ミスにて着替えが実施されていなかったこと。短期入所にて、利用予定であった方が入院され、退院後の短期入所利用について事前説明が不足していたことにより頂いた苦情であった。

② 研修

【施設内研修】(研修数18/参加延べ人数461名)

月	テーマ	講師
4月	医療に関する研修(褥瘡)	井上看護師
	事故発生等、緊急時の対応に関する研修	佐藤課長
5月	利用者のプライバシー保護に関する研修	白石部長
	食中毒の発生予防及び蔓延の防止に関する研修	上野課長
6月	感染症の発生予防及び蔓延の防止に関する研修(レジオネラ菌)	白石部長
	高齢者虐待防止に関する研修	原田課長
	研修報告(管理者の意識改革とマネジメント力UP)	小貫主任
7月	事故予防・事故対策研修	三上機能訓練指導員
8月	身体拘束等の排除に関する研修	白石部長
	医療的ケア(吸引・胃瘻)研修	前田医務主任
9月	認知症に関する研修(バリデーションについて)	河村介護職員
10月	人権擁護(虐待防止・身体拘束廃止)	原田課長
	感染症の発生予防及び蔓延の防止に関する研修(インフルエンザ)	前田医務主任
11月	感染症の発生予防及び蔓延の防止に関する研修(ノロウイルス)	前田医務主任
	倫理及び法令遵守に関する研修	白石部長
1月	事故予防・事故対策研修(アクシデント発生時の対応方法について)	施設長
2月	ターミナルケア及びグリーフケアに関する研修	施設長
3月	症例研究発表(同性介護の実施と継続)	山田(和)介護職員

【施設外研修】(研修数16/参加延べ人数27名)

月	テーマ	職種	人数
6月	安全運転管理者法定講習	介護	1
	経営セミナー	介護	2
		看護師	1
7月	インフルエンザウイルス感染症について	介護	2
		看護師	1
	負担の少ない介護技術	介護	1
	社会福祉法人新会計基準実践的基礎講習	総務	1
	平成25年年金共済事務説明会	総務	1
8月	横浜市に寄せられる施設への苦情とその対応	介護部長	1
	認知高齢者とのコミュニケーション法 バリデーションセミナー(基礎編)	介護	1
9月	乾燥設備作業主任者技能講習	介護課長	1
10月	介護事故事例から学ぶリスクマネジメントセミナー	介護	1
11月	決算書の見方・読み方	介護部長	1
		総務	1
12月	日常業務に活かす！ロジカルシンキング(論理的思考)	介護	2
		介護支援専門員	1
2月	ノロウイルスの感染対策	介護	3
3月	食品衛生責任者講習会	栄養課長	1
	普通救命講習会	介護	1
		機能訓練指導員	1
	財務三表を読み取る力を	施設長	1
総務		1	

③ 事例研究発表

前年度は「人権擁護」を全体テーマとし実施したが、今年度は職員自らがテーマを掲げ、各フロア毎に様々な取り組みを行った。内容は「同性介護の実施と継続」「多くの支援を必要としない方への本当の支援とは」「失われたコミュニケーション手段を取り戻す」「苦痛のない生活の提供とは」「入院のためADLが低下した入居者を入院前に戻す」「感染が短時間で蔓延する認知棟の感染予防」とした。全フロア中、最も取り組みの成果が表れたフロアは「同性介護の実施と継続」をテーマとした2丁目であり、職員間のコミュニケーション、意識統一が図れた結果であったといえる。

④ 面接状況

新人職員確保の手段として、ハローワーク・ホームページ・求人サイトでの継続募集、就職面接会への参加、広範囲に及ぶ募集チラシのポスティング(3,000枚)、人材派遣会社への紹介依頼等、多くの時間を費やし行ってきたが雇用の安定には至らず、介護現場における職員不足の問題は今後も大きな課題として残った。

⑤ 資格取得支援について

施設内外研修の充実、試験前の有給休暇付与といった支援にて、介護福祉士2名が新たに資格を取得することができた。

⑥ 事故・ヒヤリハット報告

入居者の入れ替わり及び、職員の入退職も伴い介護現場が安定しない中、事故対策委員会を中心に施設全体としてリスクマネジメントに努め、前年度と比較し事故件数は26件

(H24年度)→34件とやや増えたが、横浜市へ報告する重大な事故については14件(H24年度)→10件、ヒヤリハット件数は248件(H24年度)→157件と減少した。この結果については、介護動作を含めた事故予防への意識が全体的に周知されたと考える。感染症については、12月～3月を感染症対策強化期間と位置づけ、日々の消毒等、予防に努めたことで発症なく終えることができた。

【事故報告件数】

	転倒	器物破損	誤嚥	薬	火傷	表皮剥離	利用者トラブル	感染症	その他	合計
25年度	12	0	0	5	1	5	0	0	11	34

*横浜市への事故報告件数・・・10件

【ヒヤリハット件数】

	転倒	転落	行方不明	誤嚥	薬	食事トラブル	機器破損	内出血他	その他	合計
25年度	22	18	2	2	2	0	2	72	37	157

⑦ 各種会議・委員会

日常運営会議12回、衛生管理委員会12回、感染症及び食中毒予防対策委員会12回、事故対策・事故予防委員会(定例)12回(臨時)7回、虐待防止委員会3回、拘束対策委員会(定例)12回(臨時)3回、褥瘡対策委員会12回、行事委員会7回、マニュアル委員会3回、資質向上委員会1回、職員会議2回

(2) 生活支援課

① 稼働率(%)

特養	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H24	95.4	96.6	98.8	98.5	98.3	98.1	98.6	96.4	98.3	95.4	97.5	96.2	97.3
H25	99.0	97.9	99.3	99.3	98.0	98.0	97.8	97.6	95.4	93.9	98.1	96.1	97.5
短期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H24	88.0	85.5	94.7	93.1	94.2	92.8	91.3	105	102	103	103	95.5	95.7
H25	97.2	99.2	96.8	95.6	98.9	93.5	95.2	92.5	95.0	96.0	97.5	97.3	96.2

本入居は前年度と同様の97.5%を維持し、短期入所は前年度比0.7%UPの96.2%で、過去最高の稼働率を出すことができた。

② 人権擁護の取り組み

新人入職時研修及び施設全体勉強会での人権擁護に関する研修会、また前年度に引き続き今年度もフロアでの症例研究発表を開催した。

③ 苦情0対策

今年度は本入居・短期入所それぞれで1件ずつの苦情を頂いた。いずれも事前説明及び、フロアとの連携を密に図っていたら防げたものであった。そのため、苦情を自分たちの資質向上のチャンスとして、事前説明の内容見直し及び、フロアとの連携を図るために、報連相の徹底に努めていくことを意識する機会を得られた。

④ 短期入所事業

今年度の目標であった”安定した稼働率”を実現できた1年だった。単に新規利用者受け入れを積極的に行うだけではなく、本入居の空床を含めた施設全体でのベッドコントロールが前年度よりも効率よく実施できた。

また、医療的な重症者も、前年度に引き続き施設全職員での連携及び嘱託医・地域医療機関との連携を強化し、積極的に受け入れができたことも稼働率のUP・資質向上につながったと思われる。

⑤ 地域参加・地域貢献事業

近隣のひかりが丘地域ケアプラザで協働し、半年かけて企画し地域住民を対象とした「健康まつり」を開催した。

⑥ ボランティア

前年度よりもわずかだが活動人数が増えており、次年度も活動人数及び活動内容の多様化に努めたい。

⑦ 実習生・体験学習・施設見学の受け入れ状況

実習生・体験学習の受け入れ状況は前年度と同様程度だが、今年度は地域住民を対象とした大規模な施設見学を受け入れ、地域との関係性を深めることの重要性を改めて感じることができた。

(3) 医務室

① 入院者数

入院	人数	平均入院日数	平均入院延べ日数
24年度	4.6人/月	16日/月	60日/月
25年度	2.6人/月	24日/月	50日/月

② 入院者の主な病名 PEG 交換(12名)、心疾患(1名)、肺炎(4名)、その他(14名)

③ 年間救急車要請 H24年度9回 → H25年度4回

④ 年間死亡者数24名のうち施設にて看取り22名(男性10名 女性12名) 平均年齢86.7歳

⑤ 入居者の重度化が激しく、医療的な支援の関わりが多く、月30万→月45万円の医療助成金を受けている状況にあった。

(4) リハビリテーション

① 個別機能訓練実施数 : 年間総数 2656名 月平均 221名

② 個別身体機能評価実施数 : 年間総数 368名 月平均 31名

③ 実施訓練内容 : 関節可動域訓練・筋力増強訓練・自動訓練・自動介助訓練・座位訓練・ベッド上基本動作訓練・起居動作訓練・立位訓練移乗動作訓練・歩行訓練・物理療法・レクリエーション

(5) 栄養課

① 栄養状況の指標 : 低アルブミン血症10%

BMI25以上の肥満者 5.7% BMI18.5未満のやせ42%

② 療養食提供数 : 月平均 20.8名

③ 減塩食数(非加算) : 月平均 15.1名

④ 個別メニュー対応 : 月平均 4.5名

⑤ 定期的な検査数値を基本とし、アセスメントからは他職種の支援内容、更には個人の嗜好調査を元に栄養マネジメントを実施。特に、嘱託医の意見は即時の対応につながっている。

⑥ 調理職員への食品衛生マニュアルの研修を実施。今年度、事故は無し。